

V 日高振興局

1. 重点プロジェクト

【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】

～低樹高化技術による省力化栽培実証～

農業水産振興課では、うめ研究所、JA紀州、みなべ町と連携して現地実証園（みなべ町熊瀬川地区、同清川地区）を設置し、ウメ「南高」の低樹高化技術（カットバック処理）確立による青梅生産性の向上に取り組んでいる。

カットバック処理は、樹高や着果位置が低下し青梅収穫等の作業が容易となるが、結果枝が減少し翌年の収量が低下する問題がある。

そこで、カットバックと新梢の摘心処理を組み合わせることで、徒長枝となる枝を結果枝化し、収量の向上を図るとともに、冬季のせん定作業の省力化を図っている。

6月15日、熊瀬川地区及び清川地区で収量及び作業時間を調査した。

熊瀬川実証園（設置3年目）では、慣行に比べカットバック区で収量が多く、10kgあたりの収穫時間はやや短かった。

清川実証園（設置2年目）では、慣行に比べて収量が少なく、収穫時間は短かった。

本年は産地全体が不作傾向で、地域間・樹体間による着果のバラツキが大きかったため、収量等の調査は継続して行う必要があると考えられた。

今後は、冬季のせん定時間等を調査するとともに、現地研修会を実施して周辺農家への導入推進を図る。

調査結果

		1樹あたり収量	果実10kgあたり収穫時間
熊瀬川実証園	カットバック区	46.4kg	6.8分
	慣行区	12.7kg	7.0分
清川実証園	カットバック区	48.5kg	4.0分
	慣行区	54.1kg	5.7分



熊瀬川実証園



清川実証園

2. 重点プロジェクト

【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】

～「露茜」の導入推進・生産安定技術の実証～

農業水産振興課では、梅干し生産に特化した農業経営を改善するため、青梅の省力化栽培技術や「露茜」「翠香」といった特徴ある品種の導入推進に取り組んでいる。

「露茜」は樹勢が弱く、梅の一般的な整枝法である開心自然形では樹冠拡大が遅いことから、樹勢を維持し安定的な生産を続けるために主幹形仕立てによる実証展示ほ(10a)をみなべ町清川地区に設置(平成28年～)している。

6月22、29日、うめ研究所と連携して収量調査を実施した。「露茜」6年生44樹の合計収量は170kg(4.0kg/樹)でR1年(113.9kg(2.6kg/樹))に比べて1.5倍増加した。

今後は、樹高や樹容積を調査するとともに、せんだい講習会等を実施して周辺農家へ露茜の導入を推進する。



「露茜」収量調査



「露茜」結実状況